

総合的な学習の時間の改善②

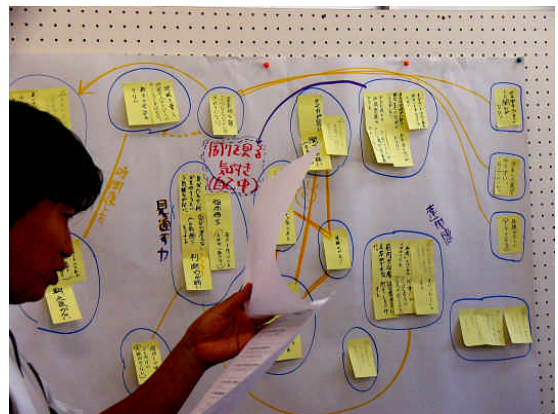
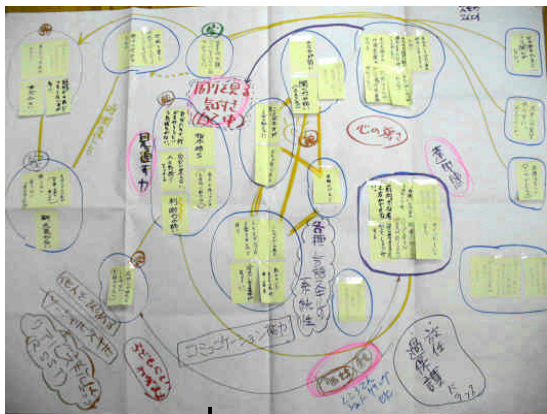
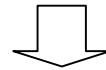
－ワークショップ型研修による身に付けたい力の明確化－

総合的な学習の時間の趣旨やねらいに沿った学習を進めていく上で、育てたい資質や能力を明確にすることは大切である。また、児童生徒の実態を全職員で把握し、それを「育てたい力」を明確にしていく必要がある。そのための手法として次のようなワークショップ型の研修が参考となる。

【実践例】ワークショップ型の研修

- 1 職員一人一人が、日頃の学校での様子、地域や家庭での様子などを付箋紙に書き、広幅用紙にまとめる。
- 2 出された意見を種類毎に分類・分析し、子どもたちに足りない力、身に付けさせたい力、及びその背景（原因）を明確にする。
- 3 出された意見を集約し、本校の子どもたちに総合的な学習の時間の取組を通じて身に付けさせていくべき資質や能力を絞り込む。
- 4 課題に即した改善策を検討する。

（南大隅町立大泊小学校の実践から）



課題

先を見通す力の向上

企画・運営能力の向上

コミュニケーション能力の向上

原因

- ・ 教師や保護者が手をかけすぎたのではないか。
- ・ 活動の準備を自分たちでしたことがないから、全体の見通しが立たないのではないか。
- ・ 無意識の中に「やらされている感」があり、それが達成感の欠如を招いているのではないか。

- ・ 多くの人たちの前で意見や考えなどを発表する機会が少ないからではないか。
- ・ 多くの人たちと接する機会が少ないからではないか。

改善策

- ・ 活動のゴールだけを示し、ゴールまでの道筋（どのような準備が必要か、どこへの連絡が必要か、どんな準備が必要か など）は子どもたちの話合いで決めさせればよいのではないか。
- ・ いろいろな話合い、準備、連絡などは可能な限り子どもたちにさせればよいのではないか。

- ・ 意図的に多くの人と関わりを持つようにしたらよいのではないか。
- ・ 活動の後に感謝の意を示すお礼状を書けばよいのではないか。
- ・ 活動中の連絡、調整などは全て子どもたちにさせればよいのではないか。